

アップサイクルを知っていますか？アップサイクルとは、使い古した物を新たな価値ある物に生まれ変わらせる加工を行うことです。

アップサイクルとは、廃棄予定であったものに手を加え、価値をつけて新しい製品へと生まれ変わらせる手法です。別名「クリエイティブ・リユース（創造的再利用）」とも呼ばれており、素材や形などの特徴を生かし、より良いものへと作り変えます。

アップサイクルは「SDGs」と関連の高い取り組み

アップサイクルは「SDGs」と関連の高い取り組みとされています。特に関連性が高いのは17の目標の12「つくる責任つかう責任」でしょうか。この目標では、持続可能な消費生産形態を確保することを目的に、ゴミやフードロスの削減が求められています。アップサイクルが廃棄予定であったものに価値を加える取り組みであるために注目されています。

アップサイクルの取り組み事例

ファッション業界：一部のブランドは、使用済みの衣料品を回収し、新たなデザインの服として再生しています。これにより、廃棄物の削減とともに、消費者に新しい価値を提供しています。たとえば、特定のブランドが古着を集め、それを再加工して限定版アイテムとして販売する取り組みが注目されています。

また、ココナツの殻の繊維質をポリエステルに練りこんだ服などもRealStoneに登場しました。

詳しくは記事右上 [↑](#) をご確認ください。

食品業界：フードロスを減らすために、規格外の野菜や果物を使用した加工食品の開発が進んでいます。これにより、農家の収入を安定させるとともに、消費者に新しい製品を提供しています。例えば、傷んだ果物を使用してジャムやスムージーを作る取り組みが増えています。

海外では廃棄食材だけを使った食品ロスレストランやバナナの皮から作った化粧品なども登場しているそうです。

弊社のある千葉県では廃棄予定の柏や船橋の梨をシードルにして梨の廃棄ゼロにする取り組みなどが行われていました。

アップサイクル

素材をそのまま活用し
価値のある製品に作り変える。



古着から帽子を作る

リサイクル

一度資源に戻してから
再生して製品を作る。



コピー用紙から
トイレトペーパーを作る

アップサイクルやリサイクルの他、一度使ったものをゴミにせず何度でも使うリユースや、古いものにアレンジを加えて作り直すリメイクも似た言葉ではありますが、そんな言葉の定義の違いがあるんだとなんとなく知って頂き、物を長く大切に使い続けていきましょうね。

～編集後記～

私の周りに身近なアップサイクル事例がないかなと探していたんですが、そういえば10年以上眠っていた高校の制服を作家さんの力で素敵な帽子に生まれ変わらせたことがありました。今でもその帽子を毎週末被っています。言葉の定義も重要かもしれませんが、定義よりも物を大切に使う意識が最も重要だと私は思います。

【Realstone2024AW】サステナ素材

Realstoneの2024AWは、前シーズンから引き続きオビベジ(タマネギで染色)、コットン50%+レーヨン50%のエコフレンドリー素材を継続使用しています。

今シーズンからは新たにココナツの繊維を使った素材COCOTEX(ココテックス)の商品が発売！



ココナツは熱帯地域においてなくてはならない樹木ですが、果実から果肉を取り、殻をそのまま捨ててしまうと、環境衛生に悪影響を与えます。

本来捨ててしまうココナツの殻の繊維質を高温で焼き加工したココナツ炭の粒子をポリエステルに練り込んだココナツ炭繊維がCOCOTEX(ココテックス)です。繊維に含まれるココナツ炭により生地表面に多数の孔が広がり水を通しやすい性質のため、防湿、UVカットなどに優れた効果が期待できます。

柔らかい肌触りが心地よい上にエコフレンドリー！是非、皆さんも手に取ってみてください！



今月のこの人

グローバル部

大堀 亜希子さん

今回、「SDGs」についてあらためて考えてみました。普段何気なくしていることも実はSDGsに関係しているのかな～と思いました。

例えば、根菜（大根、人参、かぶなど）よく洗って皮を剥かず一緒に煮物、味噌汁などに入れていきます。生ごみを少しでも減らせれば。中には皮ごと料理できないものもありますが以外と平気かと思えます。お店で出すものだとはできないかと思えますが自宅消費の料理なら問題ないかと思って(笑)

主人にはだまって食卓に出しています。他には食パンやお菓子の袋などに生ごみなどを入れて再利用し捨てるようにしています。袋や包装紙はそのまま物を出したまま捨てないようにしています。また、家で主人や娘が点けっ放しにしている電気などを消して回すことも……

あまり細かいことには気にしない方なのですが、電気の点けっばなしはとても気になります(笑)

少しでもお役に立てたらと思い、先日発展途上国への寄付をしました。(少額ですが……)

将来、日本はもちろん海外の子供たちが元気で健やかに生活できる環境になるといいなと思います。

*次回はこの人 玉木 信悟さん